

「はばたき21」では、男女平等参画社会の実現をめざして様々なテーマを扱った講座を実施しています。ここでは、今年度実施した2講座を紹介します。

『もっと知ろう政治のこと ～女性が参加するとこう変わる～』

■日時：2022年7月30日(土)10:00～12:00
■講師：申きよんさん
(お茶の水女子大学教授/パリティ・アカデミー共同代表)

男女格差をはかるジェンダー・ギャップ指数で、日本の順位は146か国中116位(2022年)。最も問題とされるのが政治分野で、女性議員の数が極端に少ないのです。

こうした状況に対して申さんは、これまでの政治は男性を基準としてきたため、ジェンダー不平等や政策に偏りが生じていると指摘。女性や若者、マイノリティー属性を持つ人々はそれぞれ異なるニーズを持っているので、そうした多様な人材が政治に参画することで議論の質が向上するといひ、実際に女性議員が増えたことによって起きた様々な変化や、どうすれば現状が変えられるのかといったお話が続きました。

まずは主権者にできることとして、政治について普段から会話をするなど、政治に関心をもつことが大切とのこと。自分が政治家になることを検討しようという呼びかけもあり、なぜ女性の政治参画が重要なのかをわかりやすく教えてくださいました。



アンケートより

- * 女性の政治参画の状況から変化、取組まで詳しく説明され、新しい知識を獲得できました。
- * 男性という立場からもできることを考えたいと、改めて思われました。

『ジェンダーの視点から女性の貧困を考える』

■日時：2022年12月3日(土)14:00～16:00
■講師：藤原千沙さん(法政大学大原社会問題研究所教授)

コロナで顕在化した女性の貧困。しかし、それは今に始まったことではなく、コロナ禍以前から存在した問題です。今回、日本社会における貧困の変遷から女性と貧困に関する藤原さんのお話を伺い、何が、なぜ問題なのかを明確に理解することができました。

SDGsでも「貧困をなくそう」と目標1に掲げられていますが、日本では、貧困解消のための政策を検討するうえで必要とされる男女別・年齢別の貧困率の公式統計がないという事実が驚かされました。

また、貧困の把握も世帯単位で行われているため、世帯内における女性の貧困が見えにくくなっていること、性別分業世帯を優遇・誘導する社会保障制度、男女の老齢年金支給額の差、子供のいる女性の稼働力の低さなどの解説によって、女性の貧困の背景にある様々な社会構造上の問題点等を知り、ジェンダーの視点から貧困を考えることの重要性と、それらが政策などに反映されることの必要性を改めて感じました。



アンケートより

- * 女性の貧困に対してはジェンダー・バイアスが大きく作用していることがよくわかりました。
- * 非常に有意義な講義で、もっと多くの人にお話を聞いてほしいと思いました。

トピック

***** 「区民学習活動支援事業」3講座を実施しました *****

「区民学習活動支援事業」は、男女平等参画をテーマにした区民向け講座やワークショップの企画を男女平等推進団体に応募していただき、選考会での審査を経て、「はばたき21」と共催で実施する事業です。今年度は、2団体による3講座が実施されました。

主催団体：台東女性史あゆみの会

『聞き書きから見た女性たちの願いと希望
～千代田区女性史編さんを通して～』

日時：2022年12月4日(日)14:00～16:30



主催団体：下町グリーンサポート響和国
『日常のグリーンに寄り添う講座』

① 『女性のライフステージとグリーン
～経験者のお話と、
日常にあるグリーンへの理解～』
日時：2022年11月20日(日)14:00～16:00

② 『音楽とグリーン
～音楽による安らぎと癒しを味わう～』
日時：2023年2月12日(日)14:00～16:00



2022 みんなのはばたき21フォーラム ～声を上げ続けよう～

- 2022年9月25日(日)
フォーラム講演会
- 2022年9月24日(土)・25日(日)
男女平等推進団体による
ワークショップ&作品展示



男女平等参画社会の実現に向けたイベントである「みんなのはばたき21フォーラム」。今年度は、3年ぶりに来場者を迎えて開催することができました。

9月25日(日)には、「日常にある『らしさ』にとらわれない多様性時代の子育て」と題した講演会を実施。ジェンダー平等についての意識が高まっている昨今、一児の母であり、弁護士として離婚・性暴力など様々な問題に関わってきた太田啓子さんによる本講演は、時宜を得たものだったと思います。

まず、「これからの男子たちへ」のメッセージとして、①「男らしさ」の呪いから自由に生きてほしい、②性別差別構造の中では「男性」というマジョリティとしての特権をもっていることを自覚し、マジョリティ



フォーラム企画委員の方たち



▲太田啓子さん

として性別・性暴力に積極的に抗ってほしいという2点を挙げ、講演が始まりました。
太田さんが離婚事案で感じる性別構造で特に深刻だと感じるのが男女間の経済力格差だといひ、その現状について、日本のジェンダー・ギャップ指数や男女間の賃金格差、管理職の女性割合の低さなど様々なデータが示されました。
家事やケアといった無償労働の女性への偏り、そして、近年のコロナ禍で男性の帰宅時間が増えたにもかかわらず、育児において女性の負担が大きい点に変化はないとのこと。こうした日本の性別解消への歩みの遅さは、「男は仕事・女は家庭」という固定的な性別役割分担意識がなかなか払拭できないことを示しているようです。また、男性優位の状況が、女性に対する性暴力につながる一因にもなっていることへの言及もありました。

参加者の声



様々な団体が活発に活動していて素晴らしいと思いました。

後半は、性別別や性暴力をなくすための子育ての話へ。
有害な男らしさやマジョリティの特権といった問題について考え、子供に教える際に参考となるような書籍やCM映像、実際の事件やジェンダーと暴力に関する報告書の紹介、性教育の重要性などが語られました。その中でホワイトリボンキャンペーンでの「フェアメン」の定義(5ページ参照)が印象的でした。
会場からの質問・指摘と太田さんとの活発なやりとりもあり、子育てを担う親にとって、示唆に富む講演となりました。

いろいろ考えさせられるものがあった。

学びながら楽しめる良い機会となりました。

バラエティに富んだワークショップや企画で、親子ともいろいろなことにふれられて良かったと思います。

多くの人とふれあえる楽しさがとても良かった。

次回も楽しみにしています。

